# 26［詩］「の月」

　　第一章

　春の花の宴

　　めぐる①かげさして

　　　の松がわけいでし

　　　　むかしの光いまいづこ

　　第二章

　秋の霜の色

　　鳴きゆくの②見せて

　　　うるつるぎに照りそひし

　　　　むかしの光いまいづこ

　　第三章

　今荒城のよはの月

　　らぬ光たがためぞ

　　　垣に残るはただかづら

　　　　松に歌ふはただあらし

　　第四章

　天上影は替らねど

　　栄枯は移る世の姿

　　　写さんとてか今もなほ

　　　　荒城のよはの月

●語注

高楼＝高く構えた建物。城中の広間か。

千代の松が枝＝千年も経たような見事な松の枝。

雁＝カモ科の渡り鳥の総称。日本へは秋に飛来し、翌春北へ帰る。群れをなして生活し、並んで飛ぶ習性がある。

植うるつるぎ＝城壁などに、敵の侵入を防ぐために、逆さに植えてある剣。

問１　この詩の形式を漢字五字で答えよ。4点

〔　　　　　　　　　　〕

問２　傍線部①の意味を詩中の言葉を用いて三字で答えよ。4点

〔　　　　　　〕

問３　傍線部②の主語を詩中から抜き出せ。4点

〔　　　　　　　　　　〕

問４（１）　第三章の３･４行目に用いられている技法を漢字二字で答えよ。4点

〔　　　　　〕

　　（２）　４行目はどのような情景か。簡潔に説明せよ。4点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　次の中でこの詩で用いられていない技法を一つ選べ。4点

ア　リフレイン　　イ　擬人法　　ウ　体言止め　　エ　連用中止法　　オ　漢語の多用

〔　　　〕

問６　この詩を起承転結で考えるならば、第一章が起、第二章が承、そして第三章を転と考えることができる。第三章が転となるその理由を答えよ。6点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問７　この詩の中で対比的に描かれているものを三組指摘せよ。4点×3

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問８　この詩の主題にかかわる四字熟語を詩の中の言葉（二字）を用いて答えよ。4点

〔　　　　　〕

問９　土井晩翠の第一詩集『天地有情』と、ほぼ同じ時期に出された詩集を次から選べ。4点

ア『落梅集』　　イ『測量船』　　ウ『月にえる』　　エ『邪宗門』　　オ『道程』

〔　　　〕

【解答】

問１　文語定型詩

問２　月の光

問３　光

問４（１）対句

　　（２）強い風（嵐）が吹いて、松が音を立てているさま

問５　エ

問６　第一章・第二章…城主をはじめ武士たちが城にいた時代（昔）

　　　第三章…住む人もなく、荒れはてた（今）現在の城の様子と述べている内容が変化しているから。

問７　・春と秋の対比

　　　・平和と戦時の対比

　　　・過去と現在の対比

　　　・城主や武士たちがそこに住み暮らした城の栄えた時代と住む人もなく荒れはてた時代の対比

　　　・変わらない月（月の光）と変わる世の姿の対比

問８　栄枯盛衰

問９　ア

■覚えておきたい語句

□18　栄枯……………………栄えることと衰えること。

□定型詩と自由詩

　詩の形式には、文語定型詩・文語自由詩・口語定型詩・口語自由詩があるが、すべての形式が同じように存在しているのではない。明治時代には定型詩が多く生みだされたが、次第に自由詩へと移り変わっていく。そして用いられる言葉も文語から口語へと変わっていく。

　したがって、口語定型詩はあまり書かれていないのである。数少ない口語定型詩の名作の一つに中原の「汚れっちまった悲しみに……」がある。

〈作者＆出典〉土井晩翠（どい・ばんすい）一八七一年（明治４）〜一九五二年（昭和27）宮城県生まれ。詩人。名字は初め「つちい」としていたが、後に「どい」に改める。第二高等学校の英文学の教授。詩集に『暁鐘』『東海遊子吟』など、翻訳にホメロスの『イーリアス』などがある。本作『荒城の月』は、東京音楽学校の『中学唱歌』のために書かれ、滝廉太郎の作曲で長く愛唱されてきた。

【読みのセオリー】

★「起承転結」で読む

　起承転結を考えるポイントは「転」にある。「転」とは、その詩の中で最大に変化しているところ。

　形式の上でも、内容の上でも一番大きく変化しているところをまず探す。そしてその理由を明らかにする。すると、その詩の仕掛けが見えてくる。

■読みのセオリー［実践］「起承転結」で読む

問６　「転」とは変化。変化の理由を考えよう。

　この詩は、

［１　　　　］調の

［２文語定型／文語自由／口語定型／口語自由］詩。

　したがって、

形式上（リズムなど）の変化は［３ある／ない］。

・第一章の「春」はいつの「春」か？

　　　　　　　　→［４むかし／いま］

・第二章の「秋」はいつの「秋」か？

　　　　　　　　→［５むかし／いま］

・第三章は、

　　　　　　　　→［６むかし／いま］

（２〜６は適当なほうに○をつけよう）

〔解答〕　１七・五　２文語定型　３ない　４むかし　５むかし　６いま

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問５　擬人法が用いられている１行を抜き出せ。

　［答］　松に歌ふはただあらし

＊差し替え

問９　土井晩翠の第一詩集名を漢字で答えよ。

　［答］　天地有情